

大山街道

見どころマップ

赤坂～三軒茶屋	1A 1B	二子玉川～荻田	3A 3B	長津田～鶴間	5A 5B	厚木～愛甲	7A 7B
三軒茶屋～二子玉川	2A 2B	荻田～長津田	4A 4B	鶴間～厚木	6A 6B	愛甲～大山	8A 8B



1. 赤坂御門から三軒茶屋まで

赤坂御門は、寛永 13 年(1636)に筑前福岡藩主黒田忠之により柵形石垣が造られた後、道 16 年に御門普請奉行の加藤正道、小川安則によって完成された門です。
 大山街道の起点はこの赤坂御門とする説が有力です。現在はその跡を残すのみとなりましたが、江戸時代の大山詣りには欠かせない重要な出発地点でした。
 赤坂御門を出発して青山を過ぎると、渋谷の宮益坂に差し掛かります。往時の宮益坂は富士見坂と呼ばれ、その名のとおり富士山を眺めることができました。頂上付近の見晴らしのよいところには、牛や馬をつなぎ、一休みできる「立場茶屋」があったとされています。
 宮益坂、そして道玄坂を過ぎると、相州街道中の四十八坂のうちでも大きな坂である「大坂」があります。この大坂から北へ行くと甲州街道に出ることができました。大坂を下り少し行くと、道標(現在は氷川神社の境内に移されています)があり、かつては交通の要衝として栄えた場所で、道標には「大山道、右めぐろ・品川、左青山」などと彫示されています。
 赤坂御門から三軒茶屋までに残る多くの「坂」の名。道往人々の苦労が偲ばれる起伏に富んだルートです。

9 青山学院



ここは江戸時代、松平左京大夫の邸があった所。明治 16 年(1883)築地にあった東京英学校が当地に移転、3 万坪の校地を取得、校名を東京英和学校とした。東京英和学校は明治 27 年(1894)再び校名を変え、「青山学院」となった。

10 宮益坂と御嶽神社



矢倉沢往還(大山道)を西に向かい、最初に立場があった坂で、もとは富士見坂と呼ばれていたが、御嶽神社のご利益を願い、宮益坂と名前が変わったとか…。今、御嶽神社は石の階段を昇り、ビルの屋上に祀られている。

11 ハチ公広場



ハチ公は大正時代、松涛に住んでいた東大教授、上野英三郎氏が飼っていた秋田犬で、昭和9年(1934)、その忠犬さ故に、銅像が建てられた。現在の銅像は昭和23年(1948)再建されたもの。ハチ公広場は今、若者たちの待ち合わせ場所となっている。

12 道玄坂



昔、当地を開発した渋谷氏の一族、大和田太郎が庵を構えていた為、その名前がついたと云う説があるが定かではない。

13 上目黒大坂



ここは大山街道の中で一番の急坂であった所。坂上の立場からは西に大山をはじめ丹沢連山が良く見えた。明治中期の東京名所図会にその様子が描かれている。

14 上目黒氷川神社



天正年間、当地の旧家加藤氏が勧請したと伝えられ、石段下に天保13年(1842)に建てられた大山道道標が残っている。正面には「大山道、せたがや通、玉川通」右側面に「ひろう、めぐろ、池がみ、品川みち」左側には「青山、あざぶみち」と刻んである。

15 目黒川大橋



新編武蔵風土記稿、上目黒村の頃に、『大橋目黒川ニ架ス、土橋ニテ長サ七間幅九尺、此橋の傍に水車アリ、文化年中、村民勘右衛門ト云う者願上テツクレリ』とある。今、上流部は暗梁化したが、下流の岸辺は桜の季節美しい。

16 大山街道沿いの陸軍施設跡(1)

大正9年(1920)代々木に明治神宮が創建されたが、その翌年大正10年、ここ青山通りから神宮橋まで表参道として約1kmの歩道、ケヤキ並木がパリのシャンゼリゼ通りを模して誕生した。

17 池尻稲荷神社



この神社は江戸時代のはじめに創建され、子育て、火伏せの稲荷として、旧池尻、池沢村の人々に信仰されてきたが、境内には「涸れずの井戸」があり、大山道を行き交う旅人の咽を潤したと云われている。

18 大山街道沿いの陸軍施設跡(2)

明治30年(1897)以降、大山街道の南側一帯に駒沢練兵場、近衛野砲兵連隊、野砲兵第一連隊、野戦重砲兵第八連隊等の兵舎が次々とでき、さながら陸軍の町と云う景観をみせていた。第二次世界大戦後、その跡地は世田谷公園、防衛庁中央病院、昭和女子大学キャンパス等の用地に利用されている。